流通とＳＣ・私の視点

2011 年 1 月 23 日

視点(1371)

Ｉ Ｓaw All China（その１）!!

－ 中国の経済力の現状評価 －

中国は 2010 年度統計で日本を抜いて、ＧＤＰで世界第２位の経済国家になります。日本は 1968 年に当時の西ドイツを抜いて第２位になって以来、43 年ぶりに第３位になります。

日本と中国の経済統計を比較すると次の通りです。

	日　本	中　国	備　考　欄
人　　口	1 億 2,705 万人	13 億 3,474 万人	中国／日本比＝10.5 倍
国内総生産（名目）	5 兆 4,778 億ドル	5 兆 8,895 億ドル	2010 年度（アメリカ 14.4 兆ドル）
１人当たりＧＤＰ	42,431 ドル	4,412 ドル	日本／中国比＝9.6 倍
外貨準備高	1 兆 961 億ドル	2 兆 8,473 億ドル	中国／日本比＝2.6 倍
株式時価総額	4.1 兆ドル	6.7 兆ドル	中国／日本比＝1.6 倍(アメリカは 17.3 兆ドル)
新車販売台数	496 万台	1,806 万台	中国／日本比＝3.6 倍
高齢者(65 歳以上)割合	23.1%	8.5%	日本／中国比＝2.7 倍
出　生　数	107 万人	1,700 万人	中国／日本比＝15.9 倍
消費の割合	57%	40%弱	―

※日本経済新聞資料を基に弊社で追加作成

中国経済の躍進には著しいものがありますが、中国経済を評価する時には２つの見方があります。

①１つは、１人当たりのＧＤＰで見る中国経済の評価

②もう１つは、購買力評価で見る中国経済の評価

この２つの中国経済の評価は全く異なるものです。

（１）１人当たりＧＤＰで見る中国経済の評価

日本と中国のＧＤＰは 2010 年でほぼ同じでありながら、中国の人口は日本の 10.5 倍であるため、１人当たりＧＤＰは日本が 42,431 ドルであるのに対し、中国は 4,412 ドルと日本の９分の１程度に過ぎません。そういう意味において、中国はまだまだ後進国ですが、中国でも沿岸都市部や拠点都市部では１人当たりＧＤＰは１万ドルを超えています。１人当たりＧＤＰが１万ドルを超えるということは、中産階級が急増してモダン消費（モノを買い、消費し、使用し、所有することに喜びを感じる消費）が本格化し、ＳＣ時代に突入することを意味します。日本の 1960 年代後半から 1970 年代初めに相当する時代です。ＳＣは「１人当たりＧＤＰが１万ドル」及び「車の世帯保有率が 50%」の時代に飛躍的に開発されます。

（２）購買力評価で見る中国経済の評価

購買力評価とは、物価や為替相場の影響を除く実質的な購買力を示します。アメリカのピーターソン国際経済研究所の試算（日経新聞資料）によると、購買力評価で見た中国の名目ＧＤＰは 14.9 兆ドルで、アメリカの 14.6 兆ドルをすでに実質的に上回っています。この購買力評価による中国の経済は必ずしも実際の国力を示してはいませんが、中国の経済力は統計的指数よりかなりの実力（ただし、今後の不安材料はたくさんありますが…）を持っています。

ＩＭＦによると、名目の中国のＧＤＰは 2025 年には現在の３倍になり、アメリカを追い越すと試算されています。

(株)ダイナミックマーケティング社[+4]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2011 All rights reserved.